

### 般若心経のころろ ～今を生きる空の教え

駒沢女子大学 学長  
安藤嘉則

仏教は、その長い歴史において宗教的救済とともに、心身を病める人々に向き合ってきました。特にインドでは紀元前後の頃から大乘仏教という新たなフェーズとなり、法華経、般若経、阿弥陀経といった日本の仏教に大きな影響を与えた大乘経典が成立し、これらの経典には観音菩薩、文殊菩薩など「菩薩 (Bodhi-sattva)」なる存在が登場し、人々の心を安寧に導いています。この大乘仏教の流れは、自らの悟りを追求する修行者のあり方から、他者へまなごしを向け、菩薩という宗教的人格を理想として行動する仏教者を生み出しました。たとえば日本では叡尊や忍性などの仏教者が登場し、貧しき庶民や病者に対する救済事業を展開し、特に忍性はハンセン病者のために北山十八間戸を開設しています。叡尊も忍性はそれぞれ「興正菩薩」・「忍性菩薩」と呼ばれています。

このように大乘仏教では、「慈悲」の実践としての衆生救済が強調されていますが、もう一つの側面として「智慧(般若)」からの衆生救済という側面もあります。般若心経に代表される般若経典で説かれる「空」の思想は、それまで現実の生活に対して、「無常・苦・無我・不浄」といったネガティブに受け止められ易い初期仏教の思想から、「常・楽・我・浄」というポジティブな教えに転換する役割を果たし、現実に対する積極的姿勢が打ち出されるようになりました。

「空」というのは梵語でシューンヤといい、「変わることなき実体としては存在しない」という意味で用いられます。たとえばAさんは生まれて30年も経ちますが、この30年間常に変化し続けています。昨日のAさんと99%同じように見えても、今のAさんとは違います。しかし私たちはずっと変わらぬ「Aさん」がいるのだと頭のどこかで思ってしまう。「空」の思想では、そのような「変わらぬAさん」とは概念上のことに過ぎず、Aさんは今のAさんしかないとします。そして何年も前の悲しい経験・不幸が今日の私を支配しているあり方、つまり「過去の私を生きる」というあり方ではなく、今日の私に正面から向き合い全力で生きていく姿勢が生まれるのです。「空」の思想はあくまで理念的なものですが、こうした空の思想を体現するため、たとえば一瞬一瞬の呼吸を見つめながら、今を生きている自分を意識的に自覚する坐禅やマインドフルネスといった実践が現代も実践されているのです。

#### 講師プロフィール

1988年～2008年 財団法人東方研究会 専任研究員  
1989年～1991年 曹洞宗宗学研究所 所員  
1991年 駒沢女子短期大学 専任講師  
2000年 駒沢女子大学人文学部 教授  
2008年 駒沢女子大学大学院人文科学研究科長  
2011年 学校法人駒澤学園理事 就任  
2018年 駒沢女子大学看護学部 教授  
2020年3月 駒澤大学博士(仏教学) 取得  
2020年4月 駒沢女子大学・駒沢女子短期大学学長 就任  
現在に至る

\* 日本仏教学会 理事、日本印度仏教学会 理事

\* 著書：「中世全宗文献の研究」国書刊行会 2000年

